CARGO リポート

SNP／SITCホーチミンセミナー

貨物増大見込み港湾開発進む

ベトナム国営のターミナルオペレーター、サイゴンニューポート（SNP）とSITCジャパン、SITCベトナムは「ベトナム（ホーチミン）港湾物流セミナー」を開催した。SITCとしてはインドネシア、北ベトナムに続く3回目のセミナーとなり、過去最大規模となった。今回は各プレゼンテーションの内容を抜粋して紹介する。（中村晃輔）

「南ベトナムの経済情勢とビジネス環境」

日本貿易促進機構（JETRO）ものづくり産業部環境インフラ課　大里和彦氏

ベトナム南部のホーチミンは国内最大の商業都市だ。人口は約9000万人で2030年に1億人を突破する見通しだ。特徴として識字率が94・8％と高く、アセアン地域でもトップクラスとなっており、日系企業が投資しやすい環境が整っている。

世界からの直接投資は伸びている。日本の対越投資件数は年々伸びているものの、金額は減少傾向にある。プロジェクトが小型化している点が理由として挙げられる。南ベトナムではコールドチェーンの需要の高まりにより、物流関係の投資が増えている。全体としては製造業からサービス業へ、輸出加工型の産業から内需型の産業への投資が増えている点がポイントだ。

ベトナムに進出する企業にとっての課題は賃金の上昇だ。毎年15％程度上昇しており、来年1月にも12・4％上昇する方向で動いている。コスト高につながる点が問題となっている。また原材料や部材の現地調達率も中国やタイに比べて低くなっている。ただ数年前と比較すると伸びており、今後も日系企業の進出が増えれば上昇する。現地企業についても、外資企業との取引が増えれば技術力が向上し、現地調達が増える可能性がある。産業では四輪車の販売が伸びている。特に商用車の販売が増えており、既に現時点で昨年の実績を上回っている。携帯電話やOA機器についても伸びている。

「ホーチミン港の成長と利便性」

サイゴンニューポート　ブイ・ヴァン・クイ・マーケティングダイレクター

サイゴンニューポートは1989年に設立された。現在はターミナル事業のほか、ロジスティクス事業、内航事業を展開している。ターミナル事業では16のターミナルを運営しており、内訳はバージターミナルが六つ、フィーダーターミナルが四つとなっている。同社の取り扱ったコンテナは2004年時点では100万TEUだったが、昨年は475TEUまで上昇。今年は約552万TEUまで拡大を見込んでいる。ベトナム国内では50％のシェアを持っている。

南部ではカットライターミナルを運営している。総面積は約150㌶で、岸壁総延長は約1・5㌔。毎週60隻が寄港している。近代的なシステムも導入しており、港のコンテナの位置などを携帯電話で簡単に検索できる。

既に多くのターミナルが稼働しているが、ベトナム経済の発展やさらなる荷動きの増加を見込み、新たなターミナルも作っていかなければならない。カットライターミナルの近くにはフーヒューターミナルを建設中だ。16年第1四半期に完成予定。また昨年にはヒエップホックターミナルが完成し、週11隻が寄港している。

北部では、ラックフェン地区で大水深港を開発中だ。商船三井、ワンハイラインズ、伊藤忠商事との合弁事業だ。ベトナム北部では現在、1000TEU型クラスのコンテナ船の入港しか対応できないが、大型船の入港も可能となる。

ロジスティクス事業では、ICDや倉庫、バージ輸送などを手掛ける。約400台のトラックを持ち、カンボジア、ラオス向けの輸送も行っている。内航事業については、北部、中部、南部を週4便運航している。

「南部経済回廊　カンボジアへの道」

SITCハイフォンホーチミン支店　グエン・コッコ・ビン・セールスマネージャー

SITCホーチミンは2009年8月に設立された。設立当時はホーチミンから週1便の輸送サービスのみだったが、現在は11便に増加している。これに伴い、コンテナ取扱量も週当たり平均476TEUから、今年は3846TEUに増加している。SITCホーチミンとしての輸出入コンテナ貨物量は毎年増加し続けている。

一方で、成長率に関しては13年から低くなっている。昨年から今年にかけてはホーチミンから日本向けの輸出が減少している。ただ、ホーチミンと日本間のシェアは依然として大きく、同航路ではまだ開発の余地があると考えている。SITCでは、今年から来年にかけてベトナム－日本航路でナンバーワンの会社を目指すという目標を掲げている。既に上海－日本航路では素晴らしい実績を持っているため自信はある。目標を達成するためには、サービス品質の向上を第一に考え、取り組んでいく。

ベトナムにおいては南部に貨物が集中している。南部では100カ所以上の工業団地があり、また大きな米の生産地でもある。SITCはこうした特徴を把握した上で、安全・安定・安心のサービスを提供していく。

ホーチミンにはSITCニューポート・ロジスティクスという会社もある。同社はコンテナデポや倉庫の運営、フォワーディング、コンテナ関連機器のメンテナンスを手掛ける。コンテナの品質によってグレード分けされており、ニーズに合わせて提供している。単なる海上輸送だけでなく、工場から港まで一貫したサービスを提供している。

「ホーチミンでの〝もの作り〟とベトナムビジネス」

矢崎総業調達本部物流統括部　柴田博夫貿易管理部長

矢崎総業は自動車部品や電線、ガスメーターなどを生産しており、世界44カ国・約440カ所に拠点を構えている。ベトナムでは南部に矢崎EDSベトナム有限責任会社、北部に矢崎ハイフォン・ベトナム有限責任会社を構えており、それぞれ分工場を2カ所ずつ稼働させている。日本、タイ、米国、フィリピンから材料や原料を輸入し、ベトナムからは自動車用のワイヤーハーネスを日本、タイ、米国に輸出している。北部ではハイフォン港、南部ではカットライターミナルをメーンに利用しているが、事業継続計画（BCP）の面からバックアップ体制も考えている。

ベトナムにおいて安全・安心の物流サービスを求めている。輸送時間の短縮や日本からベトナムへの直航サービスなど効率の良い輸送手段があれば良いなと思っている。

安全運航については、荷主として興味がある点だ。荒天時や台風が来た場合、遅延の挽回計画がどうなっているかは注目している。こうした危機管理体制に関しては荷主と船社関係者、物流関係者と話し合っていく必要があると思う。自然環境はコントロールできるものではないので、安心・安定・安全な物流に関して、関係者が知恵を絞っていく必要がある。

また、事故への未然の防止についても取り組みが必要だ。天津港の爆発事故については、当社にも多少の影響があった。中国のみならずベトナムにおいても、危険品がどのように取り扱われているかを再点検する必要があると思う。

ベトナムでは、日本がNACCSを輸出したり、AEO制度を移植したりと、円滑な物流という面で支援が進んでいる。今後、ますますこのような取り組みが進むのではないか。

ベトナムの港では拡張や整備が進んでいるが、背後のアクセス道路がどうなのかという点は非常に興味がある。例えば、フィリピン・マニラ港では昨年、道路のトラックの通行規制によって大パニックが起こった。長期にわたって混雑が悪化した。市民生活と物流が同じ領域で共有する道路があると渋滞する。こうしたアクセス道路の整備も非常に重要となる。

当社は労働集約型の産業であるため、労務コストが抑えられる市内中心地から離れた場所への拠点の設置ということも考えていく。その場合は港へのアクセス道路がしっかりしていることが、さらに重要になってくる。

「SITCジャパンのアジア展開における役割」

SITCジャパン　山口剛営業本部長

全世界の中で23・2％の貨物がアジア域内を動いており、非常に大きな割合を占めている。日本発着においても約6割がアジア域内の貨物。その中でベトナム発着は非常に伸びている。

SITCジャパンは今年20周年を迎えた。もともと日中間の輸送サービスでスタートしたが、今は「FOCUSアジア」のもと、アジア域内で積極的にサービス展開している。日本発着のニーズだけでなく、日系顧客の三国間輸送に応え、日系のサプライチェーンをしっかりサポートできる体制を整えている。サービス体制としては現在、13カ国毎週60航路を運航しており、なかにはフィリピンのセブやカガヤンデオロのような港も入っている。アジアのニーズに対応するため、各国に自社のブランチを置いている。自社のブランチであれば、コミュニケーションも円滑でサービス面でも他社と大きな差を生むことができる。SITCジャパンは本社およびブランチとの連携を重視しており、営業スタッフが現地を訪問し、共同でセールスを行っている。ニーズを把握し、顧客志向に基づきサービス展開する。

地方港展開も進めている。昨年は徳山、今年7月からは堺泉北への寄港も開始している。これまで地方港サービスというと韓国船社のイメージがあったが、地方港から上海経由で各国へいったり、物量が固まっていたら直接、東南アジアへ輸送できる体制を整えたりとさまざまな展開ができる。

ベトナム（ホーチミン）
港湾物流セミナー開催

（中左）ベトナム大使館　特命全権大使 Mr.Nguyen Quoc Cuong　（中右）Saigon Newport Corporation Executive Vice President Chairman of TCIT　Mr.Tran Khanh Hoang
（左端）SITC Vietnam ホーチミン支店　General Manager Mr.王 利波　（右端）SITC Japan 代表取締役社長　呂 開献

SITC
SITC CONTAINER LINES CO., LTD.
日本総代理店：SITC JAPAN CO., LTD.
東京本社：03-6212-1107（営業）　関西支店：06-6201-8581
http://www.sitc.co.jp